

# レッスン

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

先生

純子

奏者

先生と純子がコンクールに向けてレッスンをしている。隅で何の楽器かわからない奏者が椅子に座って待機している。

純子 カマラヤニタ、マホラソネ、ンカタバヤラワ。シポロアパノパヤー。

難しそうな表情で聞いている先生。

純子 ズンシヨボレンシヨタックナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー  
ンチャグホツ。

先生 違うでしょ。最後はそうじゃないでしょ。ちゃんと家で練習してきたの？

純子 しました。

先生 いい？ ずん子ちゃん。

純子 純子です。

先生 ただ音を拾うんじゃないの。心の流れを理解しなきゃ。ガチャピニウスの中期の作品は、どれも繊細さが命なの。もう一度。ズ

純子

ンシヨから。

ズンシヨボレンシヨタックナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー  
ンチャグホツ。

先生

違う。何度言ったらわかるの？ そこは前にマツソヨがあるでしょ。マツソヨの意味は？

純子

…わかりません。

先生

先週も言ったでしょ？

純子

すみません。

先生

コンクール近いって自覚ある？ マツソヨはセミの抜け殻の中にチヨコを流し込んで作るお菓子のことよ。いい？ ずん子ちゃん。

純子

純子です。

先生

当時、ノンベンタラリツヒ伯爵領では、セミの抜け殻は離れて行く恋人達の心を喩えるものだったの。情景を浮かべながらじゃないと、伝わらないでしょ。セミの抜け殻の気持ちになれてないんじゃない？

純子

すみません。

先生

もう一回やってみて。

純子

はい。何処から…。

先生

ズンコから。

純子

…ズンシヨからですか。

先生

そう。

純子

ズンシヨボレンシヨタックナイ、チヨペ、

ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー  
ンチャグホツ。

先生

違ーう。

純子

…。

先生

いい？ 第3チヨベリが始まってからずっとヘロ、コカ、ヘロの繰り返しなのがこので初めてアへなのよ。わかる？

純子

んん？

先生

もう一回。

純子

はい。ズンシヨボレンシヨタックナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー  
ンチャグホツ。

問。

先生

どうしちゃったの？ 具合悪いの？

純子

…大丈夫です。

先生

いい？ 先生がやるからよく聞いてて。

純子

はい。

先生

(奏者に) F頂戴。

奏者

エフ(口で言う)。

先生

…ズンシヨボレンシヨタックナイ、チヨペ、ンチヨペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャー  
ンチャピヨヌッフ！

問。

純子 …。

先生 先生がやったの、何処が違ったかわかった？

純子 はい…。

先生 情景を思い浮かべて。ノンベンタラリッヒ伯爵家のチョビヒゲーラ四世と平和部隊の女性リーダーポチャリーネの恋の終焉を予感させる重要な箇所なのよ。ずん子ちゃんも…。

純子 純子です。

先生 好きな男の子くらいいるでしょ。

純子 はい。

先生 …付き合ってるの？

純子 はい。

先生 そ。恋愛は自由よ。でもね、そのせいでコントロールを台無しになってことしないでね。じゃあ、もう一度ズンコから。

純子 ズンシヨからですか。

先生 そう。

純子 ズンシヨボレンシヨタックナイ、チョペ、ンチョペ、ンソワツホヨ、マツソヨ、チャーンチャピヨヌッフ！

先生 よくなったじゃない。さっきと全然違うわ。だって全然…。

先生 じゃあ、続きよ。ここからは裏ヘツカンコに転調するから注意してね。

純子 はい。デベッサ、レポポポポ、クドン、クルワーチヨ、ポコツ、ポフツ。

先生 違う！そこは髪の毛をここう！

純子 はい。

先生 もう一度、デベッサから。

純子 はい。デベッサ…。

終わり。